

日工販ニュースVol.23 No.03



もくじ

巻頭言「基軸通貨 米ドル？」	日工販副会長 後藤 正憲	2
メーカーインタビュー	(株)北村製作所	4
甘口辛口「20世紀からのメッセージ」	(株)井高 間瀬 宏	8
議事録「東部地区委員会」中部地区研修会」		9
工作機械と私	山下機械(株) 木田 竜也	10
私の読書評「12億の常識が世界を変える インド」 住友商事マシネックス(株) 小澤 健司		11
リレー随筆「冬の思い出」	(株)日本精機商会 秋田 英登	12
統計資料「FA流通動態調査1」2010年工作機械類等機種別輸入通関実績(速報)」 「MC・NC旋盤動向」工作機械過去5年業種別・機種別受注額実績」 「工作機械業種別受注額」2010年工作機器生産動態集計表」		13
SE教育「合格者」		18
消息・行事		18
会員会社		20

“ 基軸通貨 米ドル？ ”




日工販副会長
後藤 正憲
(三栄商事株式会社取締役社長)

1ドル82円がこここのところ定着してきている。一体いつまで続くのだろうか？

思えば1970年に私が渡米したときは1ドル360円でした。帰国した1972年の秋はニクソン・ショックのお陰で1ドル308円でした。それから40年余が過ぎてドルの価値は1/4以下になってしまいました。これでは基軸通貨と言えるのでしょうか。確かに未だに海外との決済といえばドル中心です。ユーロもリーマン・ショック以降はドル以上に危うくなってきてます。ギリシャ、アイスランド、アイルランド、次はどこだと国家の財政破綻に世界が疑心暗鬼になってます。新興国で今一番勢いのあるのは中国ですが、中国の元が基軸通貨になりうるかと言えば問題が多すぎます。これから我々は政治的にも経済的にも横綱の居ない世界に突入しようとしてます。決済通貨もドル、ユーロ、円、元といういろいろなパターンが出てくるのだと思います。

リーマン・ショックから2年余が過ぎました。もう過去のショックに成ってきたのかもしれませんが。ここでもっと昔の一次オイルショックを思い出してみたいのですが、1973年上述のニクソン・ショックの1年後です。当時ドルはま



だ300円前後だったと思います。わが社の受注額がリーマン・ショックでは3カ月で半分になりましたが、オイルショックでは1年で半分になりました。しかし回復には3～4年を要したと記憶しています。あの時は1バーレル2ドルの原油が一夜にして12ドルまで上昇した為に当時輸入額の半分が石油だったわが国は慌てふためいた訳です。しかし、今回のショックと同じように日本車は燃費がよいことを認められアメリカ市場(まだ機軸通貨国)で躍進、それにつれ国内景気も回復していきました。リーマン・ショックは新興国(主に中国と周辺国)の需要に支えられて今回復に向かいつつあります。しかし、昔と比べると何か回復軌道にも不安を感じる昨今です。これは頼りになる機関車が基軸通貨国でないからだと思います。『アメリカよ もっとしっかりしてください』と叫びたい気持ちですが、残念ながら昔の栄光はもとはには戻らないのでしょうか。

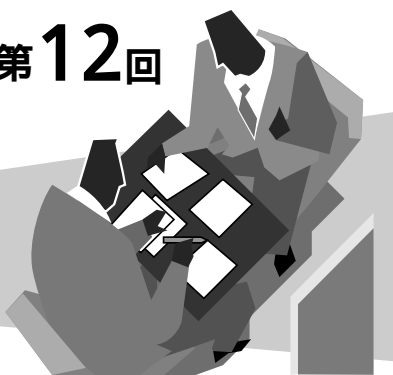
こんな混沌とした羅針盤のない航海で何かを進めなければいけない。今の閉塞感は循環型の不況にあるのではなく世界が構造的に変わりかけている時だと思います。政治には大胆な規制緩和をやり古い殻を打ち砕いて欲しいと思います。TPPも大いに結構だと思います。犠牲者が出ればそれを助け新しい道へ導いてもらいたいものです。本年2月6日に我が故郷名古屋で「知事・市長選挙・市議会解散を問う住民投票」というトリプル投票が行われます。この草稿が出るころには結果が出ていると思いますが大胆に政治も変わってほしいと願う者の一人です。

我々業界に於いても大胆な改革と新しいものへの挑戦が必要なときが来ていると思います。国内では日本でしか日本人にしかできないものを模索し、世界では是非振興国のエネルギーを取り入れるべく挑戦を果たしていきたいものです。

日工販の皆さんの活躍を心より期待するものです。

メーカーインタビュー 第12回

メーカーに聴く プロのこだわり!



株北村製作所 (本社・東京都墨田区)

**伝統の「技」と開発力を軸に、
小型に特化した精密機械でユーザーニーズに応える。**

「メーカーインタビュー」第12回は、時計部品メーカー向けの加工機械製造から出発し、その「伝統の技」を受け継ぎながら高精度・高品質の工作機械を着実に開発し続けている株式会社北村製作所(本社・東京都墨田区)。ベストセラー機種「小型精密くし形旋盤KNCシリーズ」や定評ある「タレット旋盤TXシリーズ」を擁し、さらに昨年は、新開発のCNC内面研削盤や高周波スピンドルをJIMTOFに出品した。グローバルスタンダードを目指す今後の製品戦略や販売戦略について、代表取締役の稲葉弘幸氏に伺った。



稲葉弘幸社長

2人の「金太郎」が結びついた縁

同社は1893年(明治26年)東京都墨田区太平の現住所に北村金太郎が北村製作所を創業したのに始まる。そして4年後の1897年、時計メーカー精工舎の専属工場として時計製造のための工作機械の製造を開始した。この間の事情について、同社5代目社長に当たる稲葉弘幸現社長は次のように語る。

「当社の創業とちょうど時を同じくして、精工



本社工屋

舎の工場が当社のすぐそばに移転してきました。“お隣さん”として縁が出来たのは自然のことかもしれませんが、精工舎の創業者は服部金太郎さんといい、この「金太郎 同士の同じ名前が強い縁となったことは想像に難くありません」と同時に想いをはせる。同社は戦災を受けて一時期やむなく事業を中断した歴史はあるものの、一貫してここに本社を置いている。現在、かつての精工舎跡には近代的な商業ビルが建ち、また近くにはその全容を見せ始めた東京スカイツリーが聳え立つなど、同社周辺は大きく変貌している。

戦前までは時計部品加工用のベルト掛け卓上旋盤を主に製造して精工舎に納めていたが、戦後の1949年(昭和24年)に精工舎を離れて個人経営として再出発。「KL-6」、「KL-16」など光学用の卓上加工用機械をカメラメーカーなどに納入していた。51年に有限会社に改組、57年に株式会社に改組した。この間、54年に「三号ベルト掛旋盤」を開発し、その後58年に「一本芯扇型フライス盤」、63年に「カムケガキ盤」「カム仕上げ盤」、65年に「3号簡易直結卓上旋盤」などを次々と開発。「これらの機械の開発は、何といっても精工舎さんが要求する高精度・高性能を追求してきた技術力と経験があったからこそだと言えます」とのことだが、またそれ以上に「お客様がどのような課題を持っているか、どういう機械を求めているかを知り、そのニーズに的確に答えてきたことが大きいと思います」と語る。

宮城工場を新設し、NC工作機械へも参入
1967年(昭和42年)、同社は高度成長下の需要の増加に対応して宮城県山元町の約9,800㎡の土地に宮城工場を新設し、増産体制に入った。それとともに、1970年から立て続けに油圧式による精密自動旋盤、精密自動タレット旋



宮城工場

盤、精密自動多条ネジ切盤などを開発したが、「今振り返ってみると、当社にとって最も大きな転換期となったのが、1979年の小型精密CNCくし形旋盤KNC-100Fの製造開始です」と回想する。

「当社として初めてNCを取り入れながら開発した“くし刃形”は、当時の技術革新に伴う小物部品の精密加工のニーズに応えたもので、低コスト・省スペース型でありながら高剛性・高精度を誇るものでした。その後、自動給材装置やロボットなどとの連結により自動化・ライン化に対応するなどユーザーニーズを取り入れながら、この機種は現在も進化を続けています」と説明する。現在、KNCシリーズには超小型精密「KNC-202シリーズ」、主軸移動型小型高精度「KNC-300シリーズ」など豊富な機種があるが、2002年開発の「KNC-100G」は同社のベストセラー機種となっている。

一方、1983年には小型精密CNCタレット旋盤「TX-80」の製造を開始した。「CNCタレット旋盤はKCNシリーズをベースにグレードアップしたものです。くし刃形は加工品の範囲が限られるのに対し、タレット形は複合加工により様々な加工品に対応できます。当社ではヨーロッパからの引き合いに応じて開発に着手したものです」とのこと。「現在、航空宇宙機器、電

子光学機器、OA機器、自動車部品などの精密加工分野に多く納入しており、この機種も自動化・ライン化に幅広く対応しています」と説明。機種として1チャックで複合加工の「TX-75D」、タレットY軸搭載で多彩な複合加工可能な「TX-75Y」などヒット商品を揃えている。

このほか、同社のメイン商品として小型精密卓上旋盤「KLシリーズ」も見逃せない。「卓上旋盤は当社の原点ともいうべきものです。その流れをくむKLシリーズは、当社の精密小型工作機械製造の経験と技術を生かし、精密部品加工用に設計製作した高速度・高性能機種です。時計、カメラ、ミシン、計器、通信機、光学機器など広い範囲に使われてきました」とのことで、現在、「KL-6」から「KL-25」までを揃えている。

JIMTOFに新開発の2機種を出品

昨年11月に開催されたJIMTOFに、同社は新開発のCNC内面研削盤「KGI-100N」と高周波スピンドルを出品した。

「内面研削盤は当社として初めての製品ですが、最近では部品の小型化・精密化に対応してよ

り高い精度が求められおり、その新しい需要に対応して開発したものです」とのことで「これまで培ってきた高精度の主軸を搭載し、その主軸の高速化により高能率な加工を可能にしました」と自信をのぞかせる。また、テーブルの案内面には静圧案内を採用し、これにより砥石テーブルの高速稼働とともに振動の減衰性にも優れている。

これと同時に「高周波スピンドル」を開発した。これは新開発の内面研削盤にも対応するものだが、「高剛性・高出力の設計で高能率の加工が可能であり、また、回転バランスの微調整により振動と騒音を抑えるなどの特長があります。これらの性能・特徴を生かして販路を広げていきたい」としている。現在、6万回転と8万回転/分のものがあるが、今後は5万回転から15万回転まで揃える予定だ。

同社のこうした技術開発力の源泉は、どこにあるのだろうか。稲葉社長は「まず、創業時から受け継いでいる“伝統の技”にあると思います」と強調する。「その一つがキサゲの技術です」とのこと。キサゲは、切削加工した平面などをさら



内面研削盤「KGI-100N」



高周波スピンドル

に精度の高い面に仕上げるために工具を用いてごく少量ずつ削り取る精密加工方法で、工作機械の滑り面や擦り合わせ面の仕上げに欠かせない作業だ。「最近新しい技術の開発によって高精度が実現しています。しかし、精度を最終的に決めるのは“人間の手”であり、これがキサゲです。全くの手作業であり、これは専門職の仕事です。この基本的な職人技をさらに磨き上げていきたいと思えます」と力を入れる。

また、「新開発したスピンドルにしても、これまでの機械の組み立て技術と擦り合わせ技術が、スピンドルの主軸とケースの精密な組み立てに役立っています」という。

しかし、製品開発に最も寄与しているのは、ユーザーニーズを取り入れ、それに的確に対応していることにある。「我々は技術営業としてユーザーに密に接し、ユーザーごとの要求を取り入れながら設計してカスタマイズし、それをもとに製品化してきました」というように、ユーザーとともに歩んできた歴史がある。また、同社は完全な受注生産の形をとっているが、「カスタマイズしながらの製品開発は、必ずしも効率的とは言えませんが、同じユーザーからのリピート需要が多く、それに伴う口コミ需要がありますので、ここに当社の存在価値があると思っています」と語る。

同社の経営理念には「誠意は道を拓く。誠心誠意で得た信用は最大の財産である」などとともに「品質を高め、生産効率を向上させる。機械づくりでユーザーから選ばれる企業を目指す」が上げられている。

ASEANへの販売拡大にも力

現在、同社の年間売上は約20億円。「景気の低迷や円高などで、この業界は苦しんでいます。当社も同様です」としながらも、「当社のお

客様は電子機器や光学分野などに加え、さらに医療機器などに広がっていますが、これからも小型機械の分野に特化していくことには変わりはありません」ときっぱり。「時計から始まった精密加工の分野こそ当社の道であり、小型機械には小型機械ならではの役割と機能がありますので、さらにユーザーニーズを掘り起こしつつ、新たな需要を創造していきたいと思っています」と今後を語る。

海外戦略としては、中国での需要開拓のために2000年4月に中国の西安に製造・販売の合併会社を設立した。

また、2004年10月にマレーシアに同社アセアン事務所を設けた。10人ほどの現地社員がいるとのこと。「やはり、これからは発展の可能性が高いアセアン諸国で販路を広げていきたい」とのこと。すでにタイ、シンガポール、インドネシア、バングラディッシュの代理店を通じて輸出している。また、韓国、台湾にも代理店がある。最近、中国や韓国でも工作機械メーカーが台頭しているが「まだまだ、我々の方が技術は上だと認識しています」と、あまり気にしていない。

欧米では、20数年前にフランスの販売会社から声をかけられて提携関係にあるとのこと。また、アメリカ、メキシコにも代理店を通じての輸出実績がある。

現在、販売構成は国内7割・海外3割だが、最近では日系企業の海外工場が増え、それを考慮すると6割近くが海外売上になるという。「工作機械製造は日本の誇る技術と伝統であり、当社はこの技術と伝統を守りながら、さらに世界に通用できるグローバルスタンダードとなるハイテク技術を目指すフレッシュな企業をつくることを目標にしています」と結んだ。



“20世紀からのメッセージ”

（株）井高 常務取締役 間瀬 宏

この原稿を書いているのは2月11日、弊社の創立87周年の記念日、外は大雪です。あと3年で90周年、身の引き締まる気持ちです。どんな状況で90周年、100周年を迎える事になるのか、この1・2年で決まってしまうのを感じ、いかなる方向付けをし、いかなる体制をつくり、いかに行動するか、高田社長の下、社員一丸となり日々の仕事に邁進している毎日であります。

私が当時の「井高商会」にお世話になったのが1966年4月1日、あっという間に45年目の春を迎えています。当時の社員数は29名、私達新入社員が8名加わり、先輩方が30人を超えた！と喜んでみえたのがつい昨日のこのように思い出されます。社名も「井高」と変わり、今では国内に9拠点、社員数230名余、海外も同じく9拠点（アメリカ/2、タイ、中国/3、チェコ、ハンガリー、インドネシア）、海外スタッフを加えると280名近くの会社に成長し夢のような感さえあります。

この甘口辛口への寄稿の依頼をいただき、何を書こうかと思案中に偶然、20年前に同じく寄稿させていただいた原稿が机の引き出しから出てまいりました。20年前の私が何をどう考えていたのか、又それをこの20年でどう具現化出来たか、じっくりと読み返してみました。その結果20世紀の私から現在の私へのメッセージであると勝手に判断し、20年前の文章を一字一句そのまま記させていただきます。但し紙面の関係上ポイントの部分のみとさせていただきます。

『“中略”さて、これから先、私達工作機械の営業に対して厳しき要求が多々出てくると思います。多様化、個性化する時代に合わせた多品種少量生産システム、そして高速化、高精度化、自動化等々テーマは目白押しです。“中略”単に製品をメーカーさんからお客様に流通させるだけでなく、いかにお客様のニーズにあった製品を、より早く、より経済的に提供出来るのか、それは正に「人」を活かし、「情報」を制する事にかかっていると思います。私達がなすべき事は、どんどん加速して急激な変革をとげている産業界の技術レベルに応え、「人」と「情報」を武器にお客様のニーズをメーカーの皆さんに協力していただき、「カタチ」にしていくことではないでしょうか。以上自戒をかねての拙文であります。皆様方と近いうちに、「素晴らしき出会い」をさせていただければ幸いです。』

以上です。お読みいただいた20世紀からのメッセージいかがでしたか。20年前も今も私達日工販会員が成すべき事はほぼ同じだと思います。但し21世紀に入りグローバル化、安全、環境といった新しい三つのキーワードが加わりました。この三つのキーワードをベースに、ユーザー様、メーカー様が私達に求めている内容が進化してきています。

それが何か！日工販の若手会員の皆様、是非ご自身で考えてみて下さい。いろんなご意見があると思います。そしてその答えを是非この日工販ニュースにご投稿下さい。楽しみにお待ちしております。

議事録から

東部地区委員会

日 時：2月9日(水) 12:30~14:00

場 所：機械工具会館5階会議室

出席者：角田委員長、藤井副委員長、委員3名、
事務局2名

委員長挨拶：

今年度の予定している行事について、そして理事会で会費徴収額が来期も2分の1に決定されたことによる来年度の行事について検討の上、来年度予算を作成する必要がありますので皆様の活発なご意見をいただき度よろしく申し上げます。

議 事：

1)平成22年度行事について

当初2月に工場見学の予定だったが日程面を考慮して中止とし、期初予算に対して予算を残した。

2)平成23年度行事について

東部地区委員会

必要あれば各行事の前に実施し、24年2月に総括と次年度行事・予算のために開催。

情報交換会

23年7月、24年2月と2回実施予定。

製品研修会

EMOショー等を考慮し、23年9月上旬実施予定。

工場見学会

従来の翌年となると、メーカーのプライベートショーも多く年内とし、23年11月実施予定。

忘年講演会・懇親会

研修会を行わない代わりに忘年講演会のクオリティを上げ中身の濃いものにし講演会を実施し、その後懇親会。23年12月2日開催予定。

中部地区研修会

日 時：2月22日(火) 10:00~17:00

場 所：名古屋市工業研究所

講座名：「とことん稼ぐ営業員になる！
7つの鉄則」

講 師：鶴田 慎一氏(経営コンサルタント、
ビジネススキル研究所代表)

出席者：正会員16社46名(受講者16社36名、
オブザーバー8社10名)

羽賀理事(株東陽 社長)より開講挨拶があり、研修会が開始となりました。講義は、人間が持つ向上心に火をつける話術の巧みさ、進行も次々と進

められ大いに熱のこもったお話で共感を引き込む力がまさに感じ取れた講義でした。その中で受講生のグループ討議も何度か組み込まれましたが、その都度即座に活発な討議が繰り広げられ、積極的な取り組み意識が伝わる雰囲気の中、瞬く間に予定時間を迎える事となり、加藤副委員長(カトー機械(株) 社長)のご挨拶で閉講となりました。

講座要旨：

講座要旨は、日工販ニュース平成22年10月号(創立40周年記念号)掲載の東部地区研修会(8月25日実施)をご参照下さい。

工作機械と私



山下機械(株)
機械部課長
木 田 竜 也

工作機械業界に携わって、はや20年以上になります。

私が山下機械に入社した当時は、バブル好景気のピークに向けて言わばイケイケの時代でした。まだ若く何もわからない私でも、お客様から『 〇〇のNC旋盤を2台発注するから納期を確認して見積書を持って来い』という様な、電話だけで機械が売れる事も珍しくありませんでした。当時は『1,000万円以上の商品がこんなに簡単に売れるのか』と勘違いをして商売を甘くみてしまい、バブルが弾けた後の苦労は今でも忘れられません。ただその一方で、メーカー立会いやトラブル対応など短期間で非常に多くの経験ができた事は、私にとってとても貴重な財産になっています。

そんな私でも、今だに日常の商談の中でお客様から教わる事が多く、工作機械業界の奥の深さを実感しています。諸先輩方からは“セールスエンジニア”、つまり技術営業ができる様にと常に教えられてきました。もちろん技術営業は大切な事ですが、日頃私が心掛けているのは当たり前ですが人間関係を大切にすることです。

自分にメリットがなくても私の為に汗をかいてくれる人が何人いるのか？

それは社内やメーカーの人たちはもちろんですが、お客様ともそんな関係ができると、日常の商売で助けられる事がとても多いはずですよ。

今の時代、既存の顧客を守るだけでは現状の売上を維持する事さえ困難であろうと思われまふ。

そこで必要なのが新規開拓ですが、振り返るとメーカーの人やお客様から紹介していただいた会社からの商談で、今まで何度助けられた事かわかりません。今では、そういった会社が私のメイン顧客になっています。

今後も人間関係を大切に、お客様から1つでも多くの『ありがとう』という言葉をいただける様、努力していきたいと思ひます。

最後に、最近私の心に残った言葉を紹介します。

あるお客様の賀詞交歓会に出席した時の挨拶より

……中国人から見る日本人は……

『日本人はお金を貯める。中国人はお金を動かす。』

『日本人は売るのが商売。中国人は儲けるのが商売』

『日本人の良い物を安く、という考え方はいかがなものか？

良い物は高いのが当たり前ではないのか？』

あるTVドラマの台詞より

……大切なのは、どれだけたくさんやったかではなく、

どれだけ心を込めてやったかである……

【12億の常識が世界を変える インド】

長谷川慶太郎 著（ポプラ社2010年10月初版発行）



住友商事マシネックス㈱
東京産業機械部産業機械チーム
小澤 健 司

皆さんは、インドという国に対して、どのようなイメージを抱かれるでしょうか。

私にとってのインドは、2年前の大学卒業旅行の最終地です。その時の、インド人観光業者の強引な客引き、貧富格差、生活環境・食文化が原因の体調不良などの強烈な体験は、人生で忘れられない体験です。

私が述べるまでも無く、現在のインドは新興国の中でも、最も注目されている国の一つです。

12億人という中国に次ぐ、世界第2位の人口、25歳未満の人口比率50%超、GDP成長率8.6%、いずれの数字も、インド市場の魅力を十分に伝えるものだと思います。

本書は、インドの政治・経済をはじめ、宗教、文化、カースト制度などを、図や統計を含み、分かり易く解説されています。また、インドでのビジネスリスク、インド財閥の解説、現地国民労働者の性質など、インドをビジネス市場として捉える上での基本的な情報が網羅されています。

とりわけ私が興味を引かれた点は、インドでの電力不足です。インドでの電力不足を物語る数値として、インド国内の最大電力需要に対し、電力供給が15%も不足しているというデータがあります。私がインドに訪れた際も、停電が頻発していました。そのため、各工場では、停電に備え、自家発電設備を設けている現状があります。筆者は、今後の電力インフラ整備を強化する上で、原子力、太陽光発電が、日本企業が技術を発揮できる重大なテーマとして挙げています。

日本企業のインドでのビジネス成功例として、自動車メーカー、スズキの業歴は、皆さんもご存じの事と思います。現地法人のマルチスズキは、2013年には、日本国内での生産能力を超える規模に事業を拡大するとの報道もあります。その他の成功例として、二輪メーカーのホンダが、現地財閥と合併で設立したヒーロー・ホンダが挙げられます。一方で、欧米や中東諸国と比較し、日本企業の進出が遅れているとの意見も多く聞かれます。最近になり、日本企業のインド市場への大型投資案件が、日経紙面等で報じられていますが、今後の日本企業のインドでの事業展開として、前述した電力・水処理などのインフラ整備をはじめ、インドの代名詞であるIT分野の活用といった選択肢を筆者は挙げています。

本書の末尾には、2009年10月時点でのインド市場進出している日本企業の手リストが付録されています。現在600社と言われるインド進出企業数は、近い将来、更に増加することと思います。

日工販会員の皆さん、注目されるインド市場をビジネスとして捉えるためのきっかけとして、本書を御一読されてはいかがでしょうか。また、余談ではありますが、インド独特の雰囲気を感じて一度、現地で体感されることをお勧めいたします。



リレー随筆



“冬の思い出”

(株)日本精機商会
名古屋支店第2営業課
秋田英登

今年も早いもので、既にか月が過ぎ2月に入ってしまいました。この東海地区も近年稀に見る大雪に見舞われ、とても寒い日が続いています。この時期になると、学生時代に所属していた「スキー同好会」を思い出します。14年も前になりますが、冬のスポーツを一度やってみたかったという理由と当時人気絶頂だったスノーボードは、腰パンにロン毛というスタイルが自分には似つかわしくないという偏見の理由からスキー同好会に入ってしまった。

同好会は、東海学生基礎スキー連盟に加盟しており、毎年3月に4日間行われる「基礎スキー大会」に参加していました。基礎スキーとは、決められた形の中(急斜面大回り、中斜面小回り等)で、どれだけ無駄のない美しい滑りができるかを競う競技であり、アルペンレースやクロスカントリーのように規制された区間をいかに早く滑走し「タイム」を競うのではなく、またフリースタイルのように「技の難易度」を競う競技でもないのです。基礎スキーに求められるのは、そのときの雪面状況や、その斜面に合った滑りができるかということです。

活動内容といいますと、シーズンオフは体力造りやイメージトレーニングが中心で、シーズンになると雪山に入り合宿を行うというものでした。立つこともままならない程、スキー初心者だった私でしたが、3週間の合宿で1日8時間の練習に耐え、そして先輩方の容赦ない指導のもと、ボーゲンと中斜面の滑走を難なくこなせるまでになり、その年の大会では1年生の枠ではありましたが中位に入るまでに成長できました。先輩方も肩を組んで喜んでくれたとき、初めてスキーの楽しさと、合宿の達成感を実感したのを覚えています。その後、卒業するまでに、スキーを通じ他大学とも交流を深め、今でもスキー同好会の同級生や先輩・後輩とも付き合いが続いています。貴重な経験ができたという意味でとても懐かしいです。

私は、工作機械業界に入り3年半が経とうとしています。その間にリーマン・ショックによる影響で景気が落ち込み、現時点で国内の需要が海外の需要に比べ3割程と低迷しています。しかし、良い業界・業種を耳にしなかった一昨年とは異なり、国内でも徐々に忙しい業界・業種が出てきています。国内に目を向けるのか、海外に目を向けるのかが鍵になると思いますが、基礎スキーに求められていることのように市況に合った判断とお客様に合った提案ができる営業マンになれるよう、日々努力する毎日です。そのためには、諸先輩方の良いところを学び、お客様の発言や情報にアンテナを張りながらお客様の立場に立って物事を考えることができるようにならなければならないと思っております。

そういえば、ここ数年スキーをやっていないので、来シーズンは是非、子供を連れてスキー場に顔を出せればと思っております。

今回の「リレー随筆」は(株)太陽工機 中部営業所の丸山 毅様をお願いしております。

(編集部注記：今月号の「リレー随筆」は2月初旬にご寄稿いただきました。)

統計資料

工作機械・FA 流通動態調査 1

統計1

単位百万円

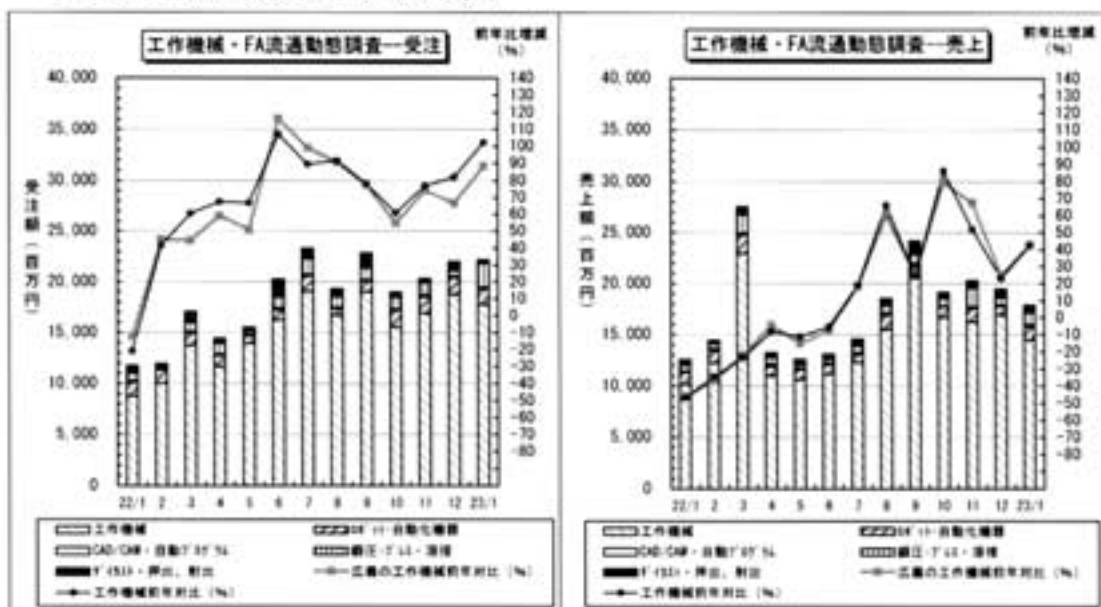
39社合計		受 注				売 上					
調査月次	23/1	前月比	前年比	22/4-23/1	前年比	23/1	前月比	前年比	22/4-23/1	前年比	
広義の 工作機械	工作機械	17,753	-5.3%	102.2%	165,437	82.2%	14,474	-14.5%	42.7%	145,771	25.9%
	ロボット・自動化機器	1,579	-4.3%	14.9%	12,656	34.3%	1,316	50.7%	11.8%	10,550	12.5%
	CAD/CAM・自動プログラム	125	-7.7%	52.4%	1,326	0.7%	140	31.6%	28.6%	1,329	7.6%
	鍛圧・プレス・溶接	2,369	288.4%	196.8%	11,616	66.7%	1,224	68.6%	109.6%	8,415	8.9%
	ダイカスト・押出、射出	324	-61.4%	-54.9%	8,150	115.8%	765	-10.1%	35.9%	7,028	135.1%
小計	22,150	0.8%	88.4%	199,196	77.4%	17,918	-8.0%	42.5%	173,082	28.2%	
工作機械以外の狭い商品	9,506	-5.2%	41.0%	96,279	47.1%	9,838	-8.7%	38.2%	95,514	40.0%	
合計	31,656	-1.1%	71.1%	295,475	66.2%	27,756	-8.3%	40.9%	268,595	30.8%	
従業員数	1,295	0.1%	-3.9%								

統計2

単位百万円

29社合計		受 注				売 上					
調査月次	23/1	前月比	前年比	22/4-23/1	前年比	23/1	前月比	前年比	22/4-23/1	前年比	
内訳	直販 (内リース)	12,157	-6.1%	65.1%	119,782	63.7%	10,722	-10.3%	37.7%	107,077	30.6%
	卸	505	-61.8%	232.3%	8,168	133.4%	955	-13.3%	36.6%	7,942	20.9%
	輸入	4,712	-0.4%	73.4%	45,644	79.1%	4,165	-12.3%	60.1%	45,059	43.7%
	輸入 (内間接輸出)	122	-40.8%	-41.3%	1,820	-2.6%	670	55.1%	-27.6%	3,020	-49.4%
	輸出	4,052	-25.9%	40.6%	40,661	130.7%	2,947	-4.7%	60.5%	33,296	51.8%
合計	310	-53.4%	-16.9%	5,515	138.0%	607	40.8%	327.5%	4,277	72.3%	
従業員数	973	0.1%	-2.9%								

注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員69社中統計1に関しては39社、統計2に関しては29社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



2010年 工作機械類等機種別輸入通関実績(速報)

(平成22年1月～12月)

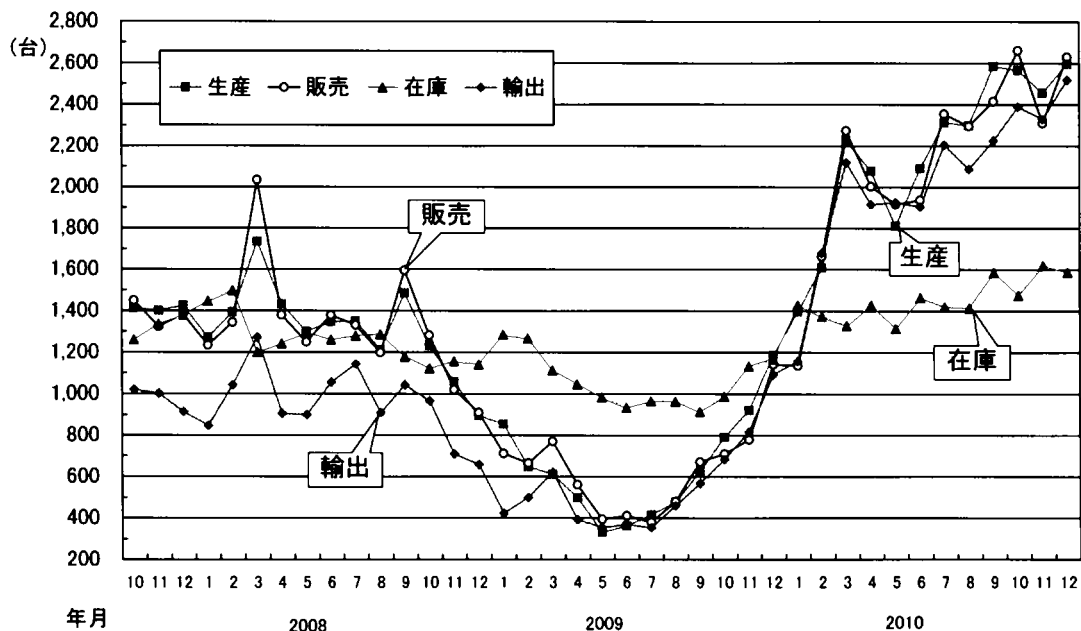
(単位:百万円)

機種	台数	金額
NC横旋盤(ターニングセンターを含む)	1,959	5,199
横旋盤	1,645	187
その他NC旋盤(横旋盤以外)	92	1,503
その他旋盤(横旋盤以外)	489	85
小計	4,185	6,975
ウェイトタイプユニットヘッド機	2	9
小計	2	9
NCボール盤	18	210
ボール盤	7,769	187
小計	7,787	397
NC中ぐりフライス盤	11	325
中ぐりフライス盤	5	15
その他の中ぐり盤	467	32
小計	483	372
NCひざ形フライス盤	16	65
ひざ形フライス盤	43	17
NCフライス盤	106	922
フライス盤	1,018	56
小計	1,183	1,061
NC平面研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	145	434
平面研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	194	571
NC研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	84	1,350
研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	46	297
NC工具研削盤	57	802
工具研削盤	14,234	175
ホーニング盤及びラップ盤	61	357
その他研削盤	30,470	834
ホーニング盤、ラップ盤、研磨盤その他仕上げ用加工機	6,639	677
小計	51,930	5,496
歯切り盤、歯車研削盤及び歯車仕上盤	45	1,807
小計	45	1,807
マシニングセンタ	386	3,210
小計	386	3,210
ユニットコンストラクションマシン	0	0
マルチステーショントランスファーマシン	5	478
小計	5	478
レーザー及び光子ビーム加工機械	858	3,744
超音波加工機械	336	177
NCワイヤカット放電加工機	346	2,331
NC放電加工機(ワイヤ放電以外の機械)	153	738
その他放電加工機	25	26
電気化学方法、電子ビーム、イオンビームその他加工機	493	1,871
小計	2,211	8,887
ねじ切り盤及びねじ立て盤	331	71
形削り盤及び立削り盤	85	32
ブローチ盤	1	343
金切り盤及び切断機	37,821	1,333
その他の工作機械	323	195
小計	38,561	1,974
合計	106,778	30,666

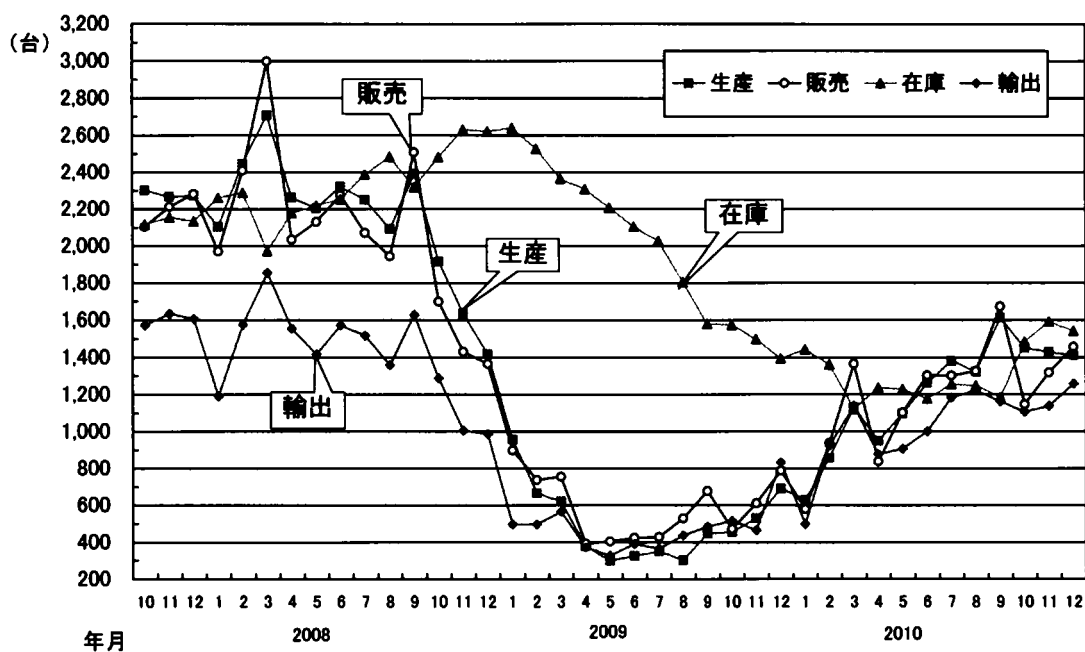
出所:財務省貿易統計

見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



工作機械 過去5年 業種別受注額実績

(単位:百万円、%)

業種	年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	
							前年比
1. 鉄鋼・非鉄金属		12,996	12,664	12,991	4,054	6,061	149.5
2. 金属製品		21,030	21,582	19,218	6,555	11,218	171.1
3. 一般機械 (内金型)		330,108	319,284	248,456	68,911	125,580	182.2
		66,667	56,975	39,059	11,628	16,352	140.6
4. 自動車 (内自動車部品)		195,505	213,125	161,336	33,862	89,373	263.9
		89,157	92,180	82,139	16,974	59,733	351.9
5. 電機機械		52,333	46,355	33,058	12,488	19,231	154.0
6. 精密機械		36,813	31,571	24,735	7,666	21,461	280.0
5. ~6. 電気・精密計		89,146	77,926	57,793	20,154	40,692	201.9
7. 航空機・造船・輸送用機械		27,066	29,796	30,798	11,183	14,049	125.6
3. ~7. 機械製造業小計		641,825	640,131	498,383	134,110	269,694	201.1
8. その他製造業		37,719	34,794	21,099	5,207	10,485	201.4
9. 官公需・学校		2,100	2,072	2,199	4,698	3,292	70.1
10. その他需要部門		8,368	8,164	7,973	3,471	4,956	142.8
11. 商社・代理店		8,971	7,017	4,957	1,553	1,821	117.3
1. ~11. 内 需 計		733,009	726,424	566,820	159,648	307,527	192.6
12. 外 需		703,961	863,567	734,327	252,161	671,095	266.1
1. ~12. 受注総額		1,436,970	1,589,991	1,301,147	411,809	978,622	237.6
(内NC機)		1,374,496	1,529,644	1,254,661	392,559	934,229	238.0
販売額		1,407,258	1,522,632	1,472,029	596,920	851,272	142.6
(内NC機)		1,348,759	1,467,631	1,421,109	576,381	814,732	141.4
受注残高		684,266	758,815	574,383	382,592	508,446	132.9
(内NC機)		649,607	721,952	544,655	354,272	478,868	135.2

出所:(社)日本工作機械工業会

工作機械 過去5年 機種別受注額実績(上段:全体、下段:NC機)

(単位:百万円、%)

機種	年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	
							前年比
旋 盤		450,596	511,178	418,994	125,438	293,598	234.1
		439,412	503,510	411,959	121,877	276,806	227.1
ボール盤		56,050	73,667	49,900	8,743	292	3.3
		54,821	72,794	49,159	8,525	30	0.4
中ぐり盤		24,524	27,479	27,666	8,996	15,390	171.1
		24,096	27,225	27,206	8,434	15,070	178.7
フライス盤		12,906	12,757	10,561	4,515	3,501	77.5
		11,463	11,256	9,227	3,916	2,719	69.4
研削盤		109,871	128,358	98,801	29,670	82,769	279.0
		94,632	114,200	88,422	26,727	76,995	288.1
歯車機械		30,001	32,468	27,509	6,535	22,715	347.6
		28,818	30,966	25,636	6,130	22,203	362.2
専用機		52,718	63,081	47,740	14,260	31,449	220.5
		50,223	59,230	44,202	13,315	28,532	214.3
マシニングセンタ		517,881	555,022	483,353	166,215	414,932	249.6
	立て形	230,901	237,847	201,645	94,272	236,610	251.0
	横形	228,108	262,718	226,096	57,216	151,526	264.8
	その他	58,872	54,457	55,612	14,727	26,796	182.0
放電加工機		59,691	55,595	42,016	13,055	31,660	242.5
		59,046	54,797	41,437	12,897	31,398	243.5
その他		83,547	89,651	63,331	26,028	59,172	227.3
		54,919	59,909	42,784	16,169	42,400	262.2
FMS		39,185	40,735	31,276	8,354	23,144	277.0
合 計		1,436,970	1,589,991	1,301,147	411,809	978,622	237.6
		1,374,496	1,529,644	1,254,661	392,559	934,229	238.0

出所:(社)日本工作機械工業会

工作機械業種別受注額(2011年1月)

2月15日発表

(単位: 百万円、%)

需要業種	期間	2010年 累計	前年比	2010年 7~9月 累計	2010年 10~12月 累計	前期比	前年 同期比	2011年 1~1月 累計	前年同期比	1月分	前月比	前年同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属		6,061	149.5	1,369	1,757	128.3	129.0	910	258.5	910	180.6	258.5
2. 金属製品		11,218	171.1	3,512	2,655	75.6	121.2	1,585	309.0	1,585	143.2	309.0
機械製造業	3. 一般機械 (内金型)	125,580	182.2	36,891	35,716	96.8	193.8	13,394	218.2	13,394	120.8	218.2
		16,352	140.6	4,854	3,971	81.8	134.4	1,401	139.3	1,401	102.1	139.3
	4. 自動車 (内自動車部品)	89,373	263.9	22,458	25,375	113.0	232.0	10,037	219.1	10,037	110.5	219.1
		59,733	351.9	15,985	18,244	114.1	247.1	6,986	222.4	6,986	112.4	222.4
	5. 電気機械	19,231	154.0	6,209	5,099	82.1	142.7	1,414	157.6	1,414	70.7	157.6
	6. 精密機械	21,461	280.0	5,491	5,792	105.5	217.7	1,930	168.0	1,930	84.4	168.0
	5~6. 電気・精密計	40,692	201.9	11,700	10,891	93.1	174.7	3,344	163.4	3,344	78.0	163.4
7. 航空機・造船・運送用機械	14,049	125.6	2,847	6,107	214.5	210.2	830	123.1	830	25.5	123.1	
3~7. 小計	269,694	201.1	73,896	78,089	105.7	202.8	27,605	205.4	27,605	99.6	205.4	
8. その他製造業	10,485	201.4	3,448	2,050	59.5	113.1	876	118.5	876	105.9	118.5	
9. 官公需・学校	3,292	70.1	752	1,533	203.9	44.9	194	52.4	194	25.0	52.4	
10. その他需要部門	4,956	142.8	1,575	1,196	75.9	106.2	361	136.7	361	82.6	136.7	
11. 商社・代理店	1,821	117.3	446	549	123.1	198.9	84	88.4	84	49.4	88.4	
1~11. 内需合計	307,527	192.6	84,998	87,829	103.3	180.4	31,615	200.4	31,615	100.3	200.4	
12. 外需	671,095	266.1	176,981	187,886	106.2	177.6	72,961	185.5	72,961	108.5	185.5	
1~12. 受注累計	978,622	237.6	261,979	275,715	105.2	178.5	104,576	189.8	104,576	105.9	189.8	
(内NC機)	934,229	238.0	246,380	266,288	108.1	181.0	102,284	195.4	102,284	106.5	195.4	
販売額	851,272	142.6	242,362	238,392	98.4	189.6	73,165	177.2	73,165	81.5	177.2	
(内NC機)	814,732	141.4	231,671	229,384	99.0	189.0	70,478	178.5	70,478	81.0	178.5	
受注残高	508,446	132.9	472,249	508,446	107.7	132.9	540,302	136.6	540,302	106.3	136.6	
(内NC機)	478,868	135.2	443,083	478,868	108.1	135.2	511,116	139.5	511,116	106.7	139.5	

(注) その他製造業 …… 楽器、皮革製品等の製造業

出所 (社) 日本工作機械工業会

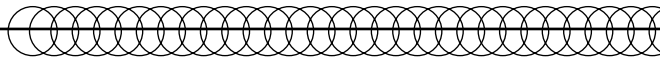
2010年 工作機器生産動態集計表

(単位: 千個、百万円)

品目	科目	生産			販売		
		数量	金額	前年比%	数量	金額	前年比%
部分品	クラッチブレーキ類	28,114	17,090	151	29,400	17,117	148
	ボールねじ	1,263	31,960	234	1,340	35,019	234
	直線運動用案内	7,041	52,275	237	7,337	55,342	223
	スピンドル	3	874	164	3	944	167
	軸継手	1,955	5,279	209	1,871	4,818	208
	その他の部分品	13	99	140	12	100	136
	合計	38,389	107,577	214	39,964	113,339	209
工作物保持具	ハンドチャック	11	1,240	91	12	1,367	93
	パワーチャック	81	6,210	193	80	5,504	177
	特殊チャック	1	287	188	1	377	138
	アクチュエータ	21	1,646	270	21	1,853	232
	回転センター	10	314	99	12	424	165
	その他の工作物保持具	23	1,322	130	22	1,211	118
	合計	146	11,019	165	148	10,735	155
工具保持具	汎用ツーリング	141	996	127	173	1,097	127
	NCツーリング	1,114	9,101	191	1,252	9,881	168
	旋盤用ツーリング	5	99	128	7	148	154
	専用機用ツーリング	24	211	162	31	249	153
	その他の工具保持具	78	810	132	82	825	128
	合計	1,362	11,217	176	1,544	12,199	160
付属機器	割出し用アタッチメント	14	11,822	223	14	10,867	209
	マシンバイス	4	461	116	6	928	183
	その他附属品	74	1,459	129	74	1,415	128
	機器	279	6,662	167	321	10,491	200
	合計	371	20,404	189	415	23,701	197
総合計			150,217	203		159,974	198

(注) 生産金額・販売金額ともに、生産者販売価格又は契約価格で表示。

出所 (社) 日本工作機械工業会



日工販SE合格者 第171回発表

今回は2月の合格者12名です。

認定No.	会社名	合格者名
11-20-2496	(株)兼松K G K	木村 匡志
11-20-2497	(株)トミタ	相沢 圭孝
11-20-2498	(株)Na I T O	遠藤 憲良
11-20-2499	大幸産業(株)	生駒 嘉弘
11-20-2500	(株)森精機製作所	白川 幸司
11-20-2501	(株)森精機製作所	窪田 健一
11-20-2502	(株)森精機製作所	山本 隆史
11-20-2503	(株)森精機製作所	土田 浩司
11-20-2504	(株)森精機製作所	松田 敏
11-20-2505	メルダスシステムエンジニアリング(株)	鷺見 弘行
11-20-2506	興銀リース(株)	井上 雄介
11-20-2507	米善機工(株)	岩野 一幸

会員・業界消息

- 社名変更 メーカー賛助会員 シチズンマシナリーミヤノ(株) 旧社名(株)ミヤノ(4月1日)
取締役社長 杉本健司
長野県北佐久郡御代田町大字御代田4107番地6
- 代表者変更 メーカー賛助会員 コマツNTC(株) 取締役社長 桃井克志(4月1日)
浜井産業(株) 取締役社長 武藤公明(4月1日)

行事予定

- 西部地区会員懇談会 3月17日(木) 大阪弥生会館
- 政策委員会・定例理事会 5月11日(水) 安保ホール
- 第42回通常総会・講演会・懇親会 6月8日(水) 八重洲富士屋ホテル
- 政策委員会・定例理事会 7月6日(水) 機械工具会館
- 政策委員会・定例理事会 9月15日(木) 大阪産業創造館
- 政策委員会・定例理事会 11月10日(木) 安保ホール

展示会

- CIMT2011中国国際工作機械展示会 4月11(月)~16日(土) 北京・中国国際展覧中心(新館)
- LASER EXPO 2011 4月20日(水)~22日(金) パシフィコ横浜
- INTERMOLD2011(第22回金型加工技術展) 4月20日(水)~23日(土) 東京ビックサイト
- MEX金沢2011(第49回機械工業見本市金沢) 5月19日(木)~21日(土) 石川県産業展示館
- 微細・精密加工技術展2011 5月25日(水)~27日(金) インテックス大阪

行事予定

スマートグリッド展&次世代自動車産業展	6月15日(水)~17日(金)	東京ビックサイト
難加工技術展2011	7月6日(水)~8日(金)	ポートメッセ名古屋
プレス・板金・フォーミング展 MF-Tokyo 2011	8月3日(水)~6日(土)	東京ビックサイト
EMO HANNOVER 欧州国際工作機械見本市	9月19日(月)~24日(土)	Hannover国際展示場
MECT2011メカトロテックジャパン	9月29日(木)~10月2日(日)	ポートメッセ名古屋
測定計測展Measuring Technology Expo 2011	10月12日(水)~14日(金)	東京ビックサイト
次世代ものづくり基盤技術産業展TECH Biz EXPO 2011	10月19日(水)~22日(土)	ポートメッセ名古屋
2011国際ロボット展	11月9日(水)~12日(土)	東京ビックサイト

編集後記

3月号をお届けします。春の足音が近づいてくるとともに工作機械業界も漸く厳しい冬が終わりつつあることが改めて実感出来る今日この頃です。

対立する二つの国の共同声明は「不一致」と書くわけには行かず、どのようにして記載するのかとっていましたら、ある時新聞に外交文書の知恵で紹介されていましたがなるほどと思いました。それは「共通の目標に向けそれぞれの立場で努力することで一致した」と記載するのだそうです。そして1月の米中トップ会談後の長い声明では両政府の苦心のあとがうかがえます。そこには「両首脳は米中関係が重要かつ複雑だと認識した」と、要するに分かり合えないと認識したということでした。

大相撲の八百長問題は相撲ファンとしては裏切られた気持ちで非常に残念なことです。一連の報道より別な切り口で考えてみますと深刻な格差問題が浮かび上がってきます。星の貸し借りをしたのは十両に集中していますが、十両を陥落して幕下になると100万円以上の月給からはなしも同然、付き人がついていた身分から付き人はなし、場合によっては付き人にならなければならない、個室から大部屋へそれこそ地獄に落ちるようなものでこれほど身分による格差がある職業があるでしょうか。まだ十代の若い時分なら衣食住が保障され天国と思える時があるかも知れませんが、ある程度年月がたち閑取になり結婚を考える、あるいは結婚している場合、幕下への陥落は生活面からそして精神面からとても受け入れ難いものと思われます。本来は実力の世界ですので必死になって自分の力で身分を守らなければなりません、このようにあまりにも格差が激しい状況だからこそ助け合いの風土が生まれてきたのではないかと思います。横綱までの階級社会で上を目指して自分の力だけで駆け上げて行くという、それもサラリーマンの給料、待遇と違って昇進するに従って大きく差が出てくるという特殊な社会、更に頂点を極める者は二十代という世界、30歳を超える年代になると引退を考えなければなりません。そして力を出し切った後は何十年と続く引退後の世界が控えており、それも部屋を持てたり、役職に就いたり相撲の世界で恵まれた生活を出来るのは一握りの力士たちです。そう考えるとこのような世界に入っていく現代の日本の若者は果たして今後どのくらいいるのだろうかという疑問が湧き上がってきます。

日工会発表1月受注確報によりますと、内需316億円・外需730億円となり総額1,046億円と2008年9月以来28か月ぶりに1,000億円超えとなり、注目の内需もここ3カ月緩やかですが上昇しており今後を期待したいと思います。

「日工販ニュース」 Vol.23 - No.3

平成23年3月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 宇佐美 浩
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成23年3月1日現在

正会員(全69社)

【東部地区(33社)】

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠マシンテクノス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株)カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 帝通エンヂニヤリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 (株) ト ミ タ
 (株) 豊 通 マ シ ナ リ ー
 (株) N a I T O
 (株) ナ チ 常 盤
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 丸紅マシンツールズ(株)
 三井物産マシンテック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

【中部地区(20社)】

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコ一商事(株)
 三立興産(株)
 下野機械(株)
 (株) 大 成
 (株) 大 誠

(株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

【西部地区(16社)】

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大幸産業(株)
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西川産業(株)
 日本産商
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全74社)

【製造業(58社)】

(株)アマダマシンツール
 育良精機(株)
 (株) エ グ ロ
 エヌティーツール(株)
 (株)MSTコーポレーション
 エンシュウ(株)
 オーエスジー(株)
 オークマ(株)
 大阪機工(株)
 (株)岡本工作機械製作所
 (株)カワイエンジニアリング
 (株)神崎高級工機製作所
 (株)北川鉄工所
 キタムラ機械(株)
 (株)北村製作所
 キヤムタス(株)
 黒田精工(株)
 コマツNTC(株)
 (株)C & G システムズ
 (株)ジェイテクト
 (株)シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)
 (株)ソディック

大昭和精機(株)
 (株)太 陽 工 機
 高松機械工業(株)
 (株)滝澤鉄工所
 (株)ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株)東 京 精 密
 東芝機械(株)
 東洋精機工業(株)
 (株)ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株)日研工作所
 (株)日進製作所
 ハイデンハイン(株)
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー工業(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株)牧野フライス製作所
 (株)松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株)ミ ツ ト ヨ
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株)ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株)森精機製作所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)
 吉川鐵工(株)

【リース業(16社)】

NTTファイナンス(株)
 共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 JA三井リース(株)
 住信・パソニックフィナンシャルサービス(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日本GE(株)
 日立キャピタル(株)
 三井住友ファイナンス&リース(株)
 三菱電機クレジット(株)
 三菱UFJリース(株)